

鹿児島県ドクターヘリ運行開始前「実地訓練」

ドクターヘリ 鹿児島市内から 18 分



②



③



④①



- ① 鷹巣運動場に着陸するドクターヘリ
- ② 搬送された救急車で救急救命センターのドクターが救命措置
- ③ 東・長島分遣所職員によるドクターヘリへの搬送訓練
- ④ ドクターから指示を受け患者をドクターヘリへ搬入

阿久根地区消防組合は12月7日、東・長島分遣所全職員26人を対象とした、鹿児島県ドクターヘリ運行開始前実地訓練を実施しました。

この訓練は、鹿児島県が12月1日からドクターヘリの運行を開始したことに伴い、今後、実際のドクターヘリ出動要請から患者搬送までの想定と、関係者間の相互連携を確認しようといわれたものです。

今回、鹿児島県が導入したドクターヘリは、イタリアのアグスタウエストランド社製の日本では2機目で、安全性が高く、視界が悪い日でも運行が可能。国内でドクターヘリとしては初の導入となりました。

訓練当日は、午前10時に阿久根地区消防組合東分遣所から、鹿児島市立病院内に設置された、ドクターヘリ運行管理室に出勤要請がかかりました。ドクターヘリは昼間は鹿児島市浜町のヘリポートに、夜間は鹿児島空港に常時待機し、同日は浜町ヘリポートか

ら離陸後18分で鷹巣運動場に着陸しました。

到着後待機していた救急車内の患者には、鹿児島市立病院救急救命センターのドクターと看護師が迅速な行動で乗車し、救命措置を開始。その後、一連の動作を確認しながらドクターヘリに患者を搬入していました。

約1時間の訓練は本番ながら行われ、分遣所職員らはドクターからの指示のもと真剣な表情で訓練を受けていました。参加した東分遣所の杉原修消防士は「ドクターが直接措置するので救命率の向上が期待でき、今回の想定訓練をもとに一人でも多くの人命が助けられうれしいです」と話しました。

今後町内で、ドクターヘリの要請があった際の臨時離陸着場は鷹巣運動場、本浦小学校、三船漁港、川床コミュニティ運動場、城川内運動場、小浜港、浜瀬広場、片側港、幣串漁港、御所ノ浦港の10カ所が指定されています。